

ページ 2

Basic Information / 基本情報

Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2013年6月から2013年1月まで

Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

37MEMBERS

Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

大学教授（国境問題の専門家）、2自治体、NPO法人

Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1万円なら one hundred dollar

US\$15,000

Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

In Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目（もしあれば）

説明：

Who is benefited? 誰の為に？

説明：活動エリアに住み暮らす人々 人

名古屋市内に通い 高校 大学の学生及び名古屋に住み暮らす人々220万人

Objective 目的

説明：(例1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

<目的1>

次世代の市民が、自国（日本）の国境（領土・領海・EEZ）を知り、国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを正確に理解すること。

<目的2>

次世代の市民が、国境問題を通じて OMOIYARI を行動規範とする重要性を認識すること。

これらの目的達成は他国との紛争を解決し、恒久的世界平和に繋がる。

①名古屋市を中心に日本に暮らす 4030 人への調査の結果、自国の主張する国境の範囲を正確に理解していたのはわずか 3.18%

②自国の主張する国境の範囲を正確に理解していないと、国境に関する相手国の主張との違いを理解することはできない

③国境に関する自国と相手国の主張の違いを理解することができないと、自国の市民と相手国の市民が共感することができず、国境問題の平和的解決に向けた行動をすることができない

④国境問題を平和的に解決するためには、相互理解→共感→行動という OMOIYARI を行動規範にしなければならない

・自国の主張を理解した上で、相手国の主張にも耳を傾けるという相互理解が重要である



・相手国との相互理解は、相手国と共感に繋がり、平和的解決に向けた市民の民主的行動に繋がる



・平和的解決に向けた市民の民主的行動によって国境問題が解決でき、恒久的世界平和に繋がる

Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

①調査（2013年6月～11月）

- ・ JCI名古屋は名古屋市を中心に日本に暮らす 4030 人を対象に日本の国境（領土・領海・EEZ）の範囲を知っているか調査を実施した
- ・ JCI名古屋は日本の国境の範囲をクリアファイルにして市民に配布した
- ・ JCI名古屋は国境問題の相手国（韓国、中国、ロシア）に日本との国境問題の捉え方と歴史教育についての調査を実施した

②セミナーの開催（2013年7月）

- ・ JCI名古屋は青少年及びその親 1464 人に対し当事国全ての領土・領海に対する歴史教育の違いと問題の捉え方の違いを知るためのセミナーを実施した
- ・ JCI名古屋はパネルに写真やマンガで日本と他国の領土・領海に関する歴史、政府見解を展示した
- ・ JCI名古屋メンバーが領土・領海問題に関する現地取材を行い、現地取材に基づいた映像を上映した

③大学教授との対談及びパネル展示（2013年11月）

- ・ JCI名古屋は国境問題を平和的に解決するために大学教授との対談を実施した
- ・ JCI名古屋は①の調査の結果を発表した
- ・ JCI名古屋は①の調査の結果分かった問題点について大学教授の意見をもらった
- ・ JCI名古屋は市民に対し国境問題について自国と相手国との意見の違いをよく知ることが大事だと発表した
- ・ JCI名古屋はパネルに写真やマンガで日本と他国の領土・領海に関する歴史、政府見解を展示した
- ・ JCI名古屋メンバーが領土・領海問題に関する現地取材を行い、現地取材に基づいた映像を上映した

④パンフレットの配布（2013年11月）

- ・ JCI名古屋は調査・研究結果をまとめたパンフレット 1500 冊を市民に配布した

Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

<結果1>

次世代の市民が、自国の国境の範囲を知り、国境問題に関する自国と相手国双方の主張の違いを正確に理解した。

<結果2>

次世代の市民が国境問題を通じて自国と相手国相互の主張の違いを知り、OMOIYARIを行動規範とする重要性を理解した。

<結果1の根拠>

・JCI名古屋は調査を行った市民 4030 人に日本の国境（領土・領海・EEZ）の範囲をクリアファイルにして配布した。クリアファイルを受け取った市民は「国境の範囲を全く知らなかったなので、これを機会に興味を持ち勉強する必要がある」と語った。

・JCI名古屋は調査・研究結果をまとめたパンフレット 1500 冊を市民に配布し、市民はそのパンフレットを見て国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを理解した。

・本事業に参加した市民のアンケート結果

「自分の国のことなのに、他人事のように思っていたことを知った。領土について勉強し、正しく領土問題と向きあえるようにしたい。」

「日本の領土のアンケートも全然わからなかったし、パネル展示を見ていても知らないことが多かったので勉強になりました。」

「領土、領海がどのくらいの場所までなのか、日本の北方領土について、深く良くわかった。」

「領土の範囲がよく分からなかったけど、話しを聞いてどこまでが範囲か分かった」

「この講座を通して、より正確に領海を知ることができました。」

「パネルも、歴史から今の他の国の人たちの考えなど、簡潔にまとめてあり、分かりやすかったです。」

・大学教授のコメント

「日本と相手国との国境問題に関する意見の違いを知ることができるとても良い事業だと思います。今後も継続して行ってほしい。」

<結果2の根拠>

・本事業に参加した市民のアンケート結果

「お互いに相互理解を深める事が大切だと私は考えます。」

「正しい歴史と相手国のこと、主張を知ることから始めたら...と思っています。」

「日本の考えも大切だが、ロシア韓国、中国など、ほかの国の意見も大切なものだということがあった」

・ **大学教授のコメント**

「日本と相手国との国境問題に関する意見の違いを知ることができるとても良い事業だと思います。今後も継続して行ってほしい。」

Actions Taken 行動

説明：

2013 年

4 月 事業企画

6 月 4 日～6 日 JCI 名古屋メンバーによる香港現地調査

6 月 8 日 JCI 名古屋メンバーによる名古屋での調査

6 月 14 日～16 日 JCI 名古屋メンバーによる韓国現地調査

7 月 4 日～8 日 JCI 名古屋メンバーによる北方領土現地調査

7 月 13 日～15 日 名古屋市内の大学でセミナー開催

9 月 6 日 JCI 名古屋メンバーによる東京での調査

9 月 28 日～30 日 JCI 名古屋メンバーによる沖縄現地調査

10 月 11 日～13 日 JCI 名古屋メンバーによる釜山（韓国）・壱岐津島（日本）現地調査

11 月 17 日 大学教授との対談開催、パネル展示

パンフレットの配布

12 月 お礼状送付、事業の検証作業

Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

<目的を達成した点>

- ・名古屋市を中心とする 4030 人の市民に日本の国境問題の範囲を理解してもらった。
- ・次世代の市民を中心とするセミナー参加者 1464 人に国境問題に関する自国と相手国の歴史教育の違いと国境問題の捉え方の違いを理解してもらった。
- ・対談とパネル展示では、新たに 618 人の市民に自国と相手国の双方の主張を理解することが平和的解決のために重要だと理解してもらった。
- ・1500 人の市民にパンフレットを配布して国境問題に関する自国と相手国の歴史教育の違いと国境問題の捉え方の違いを市民に理解してもらった。

<一番のポイント>

- ・3.18%しか理解していなかった日本と相手国との国境問題の主張について、多くの市民が理解した。
- ・多くの市民が日本と相手国との国境問題に関する主張の違いを知ったことで、自分たちの問題として国境問題を考えるように POSITIVE CHANGE できた。
- ・その結果、多くの市民が、日本の市民と相手国の市民が相互理解、共感し、民主的行動を起こすこと、つまり、OMOIYARI を行動規範として国境問題を平和的に解決することが重要だと理解した。
- ・今後、国境問題を考えるとき、市民はOMOIYARIを行動規範とし、平和的な解決を目指して積極的に行動する市民へと POSITIVE CHANGE することができる。
- ・そして、POSITIVE CHANGE した市民が、次世代へと OMOIYARI を行動規範とすることの重要性を伝え、POSITIVE CHANGE の連鎖が広まっていく。〈改善策〉
- ・より多くの市民に参加してもらえる広報を考える。

<一番のポイント>

- ・自国(日本)と相手国との領土・領海に関する意見の違いを知った上で、相互理解を通じた問題の解決を図ることが大事だと市民が理解したことが重要である。
- ・今後、領土・領海の問題を考えるとき、市民がOMOIYARIを行動規範として、平和的な解決を行べきだと POSITIVE CHANGE することができる。

Objectives, Planning, Finance and Execution

目的、計画、財務、実施

What were the objectives of this program?

このプログラムの目的は？

<目的1>

次世代の市民が、自国（日本）の国境（領土・領海・EEZ）を知り、国境問題に関する自国と相手国双方の意見の違いを正確に理解すること。

<目的2>

次世代の市民が、国境問題を通じてOMOIYARIを行動規範とする重要性を認識すること。

これらの目的達成は他国との紛争を解決し、恒久的世界平和に繋がる。

How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのように JCI の活動計画と合っていますか？

この事業は、以下の3点で JCI の活動計画に合致する。

- ・日本の国境問題というという世界が注目する時事的な話題に焦点をあてて、会員が JCI ミッションを現在の事象に結びつけて考えることを促す点
- ・本事業は、内部、外部問わず7700人以上の多くの人々に向けて、OMOIYARIを行動規範とすることの重要性を示す点
- ・市民が OMOIYARI という JCI VALUE を現在の問題の永続的な解決策と考え、JCI VALUE に関する理解を深めた点

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算は事業の財務管理の為に効果的なガイドになりましたか？

- ・次世代の市民が OMOIYARI を行動規範とすることの重要性を理解するためには、今の市民への啓蒙が必要である。
- ・多くの市民へ日本の国境（領土・領海・EEZ）の範囲を啓蒙できるよう予算の90%を市民への啓蒙活動の費用に充てた。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は JCI のミッションとヴィジョンを推進しましたか？

JCI ミッションの推進

<目的 1 に関して>

・ JCI 名古屋は、次世代が、自国の国境の範囲を知り、国境問題に関する自国と他国双方の主張の違いを正確に理解して POSITIVE CHANGE する機会を提供する。

<目的 2 に関して>

・ JCI 名古屋は、次世代が、OMOYARI を行動規範として国境問題の平和的解決に向けて積極的に行動するために POSITIVE CHANGE する機会を提供する。

JCI ヴィジョンの推進

・ JCI 名古屋は、市民に、本事業を通じて OMOYARI を行動規範とする重要性を示す。その結果、市民は OMOYARI を行動規範とする重要性を認識し、平和的解決に向けて ACTIVE CITIZENS となった市民が次世代へ OMOYARI の重要性を伝えるネットワークを生む

※画像 4 つ必要

ページ 4

Membership Participation 会員の参加率

By number, how many members were involved in this program?

事業のスタッフは何人？

37MEMBERS

By percentage, how many members of the Local Organization were involved in this program?

LOM メンバーの参加率は？

30%

Describe the main roles of the participating members in this program

このプログラムで参加しているメンバーの主要な役割を簡潔に記述してください

- ①事前のアンケート調査（2013年6月～11月、37人のJCI名古屋メンバーが名古屋を中心に実施）
- ②国境問題の現地調査（2013年6月～10月）
 - ・香港（2人のJCI名古屋メンバーが6月4日～6日に実施）
 - ・韓国（3人のJCI名古屋メンバーが6月14日～16日に実施）
 - ・北方領土（2人のJCI名古屋メンバーが7月4日～8日に実施）
 - ・沖縄（2人のJCI名古屋メンバーが9月28日～30日に実施）
 - ・釜山（韓国）・壱岐津島（日本）（4人のJCI名古屋メンバーが10月11日～13日に実施）
- ③セミナーの企画・開催・検証（2013年4月～12月、37人のJCI名古屋メンバー）
- ④対談の企画・開催・検証（2013年4月～12月、37人のJCI名古屋メンバー）
- ⑤調査結果の発表（パネルで展示）（2013年11月17日、37人のJCI名古屋メンバー）

※画像4つ必要

ページ5

Skills Developed 習得された技術・能力

What skills were developed in this program?

どんな技術・能力が、このプログラムで習得されましたか？

- ・JCI 名古屋メンバーは、国境問題に関する調査の過程で、国境問題に関する自国と相手国の歴史を学ぶことで、異なる文化・歴史に共感する能力を習得した。
- ・JCI 名古屋メンバー及び市民は、国境問題解決のために OMOIYARI を行動規範とする手法を習得した。
- ・JCI 名古屋メンバーは、国境問題に関する調査結果を漫画や絵を用いて説明することで、効果的なプレゼンテーション能力を習得した。

How were these skills developed? Describe the methods and activities used.

これらの技術・能力はどのように習得されましたか？用いられた手法や活動を記述してください

①異なる文化・歴史に共感する能力

JCI 名古屋メンバーは、現地調査を通じて、多くの外国人から話を聞くことによって、異なる文化・歴史に共感する能力を取得した。

②国境問題解決のために OMOIYARI を行動規範とする手法

・JCI 名古屋は、大学教授から、国境問題解決のために OMOIYARI を行動規範とする T ことを学んだ。

・次世代の市民は、セミナー、パネル展示、大学教授との対談及びパンフレットから国境問題解決のために OMOIYARI を行動規範とすることを学んだ。

③効果的なプレゼンテーション能力

JCI 名古屋メンバーは、パネルやパンフレットを作成する過程で効果的なプレゼンテーション能力を学んだ。

※画像4つ必要

Impact on Participants 参加者への影響

What was the intended impact on the participants?

参加者への意図された影響は、何でしたか？

市民が、国境問題の平和的解決のため、OMOIYARI を行動規範として民主的に行動することが重要だと理解すること

Describe the actual impact on the participants.

参加者への実際の影響を記述してください。

①次世代の市民が、本事業を通じて国境問題に関する自国と相手国相互の主張の違いを知り、OMOIYARI を行動規範とする重要性を理解した。

②JCI 名古屋メンバーが調査の過程で国境問題に関する自国と相手国の主張の違いを正確に理解し、OMOIYARI を行動規範とする重要性を理解した。

<①の根拠>

・本事業に参加した市民のアンケート結果

「お互いに相互理解を深める事が大切だと私は考えます。」

「正しい歴史と相手国のこと、主張を知ることから始めたら...と思っています。」

「日本の考えも大切だが、ロシア韓国、中国など、ほかの国の意見も大切なものだということがわかった」

・大学教授のコメント

「日本と相手国との国境問題に関する意見の違いを知ることができるとても良い事業だと思います。今後も継続して行ってほしい。」

<②の根拠>

・JCI 名古屋メンバーは、現地取材やパネル展示で自国と相手国の主張の違いを正確に示した。

※画像 4 つ必要

ページ 7

Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期の影響は、何ですか？

OMOIYARI を行動規範とする重要性を認識する次世代が増えることで、国境問題の平和的解決に向けた民主的行動を起こす ACTIVE CITEZENS が増え、国境問題が平和的に解決される。

国境問題がなくなることにより、究極的には世界平和実現への影響を期待する。

What changes would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

①国境問題を考えるに当たっては、中立的な立場に立って平和的解決を模索することが必要である。

そのためには、自国と相手国の双方の主張を十分に聴取する必要がある。

今後は、相手国の国境問題の専門家や相手国の政府への調査も必要である。

②本事業を長期的継続的に行っていくためには、他団体もプログラムを実行できる形でパッケージ化することが必要である。

※画像 4 つ必要